

Oral Science

松戸歯学部のエデュケーション

歯科医師は虫歯を治療するだけでなく、
口腔の健康を通じて全身の健康を支えるために、ますます重要となってきます。
松戸歯学部は歯科医学を「オーラルサイエンス（口腔科学）」と捉え、
医学の一分科としての教育を行っています。

がん予防

唾液には発がん性を減少させる物質も含まれています。
清潔で健やかな口腔環境を保つことは、がんの予防にも大切です。

感染予防

口はからだの入口です。
口腔の清潔が肺炎などの感染予防にとっても役立ちます。

脳の活性化

噛むことは脳の活動を活発にします。
自分の歯で噛めることが認知症の予防にもつながります。

豊かな表情

美しい歯は輝く笑顔の主演です。
健康な口は豊かな表情をつくれます。

口臭予防

さわやかな息は、やさしいエチケット。
歯周病や内臓疾患などでは病的口臭が現れます。

オーラルサイエンス (口腔科学)



消化促進

よく噛んで食べると、食べ物と唾液がよく混ざり消化吸収を助けます。
そして、胃腸の負担も軽くなります。

体力向上

しっかりと噛むことは歯やあごの発育だけでなく、丈夫なからだづくりの基本です。

3 松戸歯学部 つの特長

point

1 付属病院と連携した 実践的な臨床実習

指導医、患者さん、医療スタッフと関わりながら診療に参加します。付属病院での実習を通じて、知識・技術だけでなく、柔軟なコミュニケーションスキルを身に付けることができます。実習の舞台となる付属病院は、歯科大学付属病院として電子カルテを国内初導入し、様々な最新検査機器を備え、複雑化・多様化する医療ニーズに対応したスキルを身に付け即戦力となる歯科医師を育成します。

全国でも来院患者数トップクラスの 付属病院

来院患者数年間25万人以上、1日約900人、年間入院患者数約5,000人と、全国の歯学部付属病院でもトップクラスの来院患者数を有しています。5年次からの臨床実習では、この多くの患者さんのご協力により豊富な臨床経験を積むことができます。歯科医師臨床研修では、歯科医師免許取得後の1年間を大学付属病院などで研修歯科医として過ごしますが、当病院では約100人の歯科医師臨床研修医の受け入れ体制を整えています。

患者さんを中心とした 医療環境

地上4階、地下1階の付属病院棟には、歯科治療用ユニット183台、ベッド数31床を備えています。パティオを中心に20診療科(歯科16科、医科4科)と8つの専門外来を機能的に配置し、患者さんを中心とした構造になっています。また、最新の歯科用CBCT、MRI、血管造影装置など、あらゆる角度からの確な診断を可能とする設備を有し、歯学部付属病院として国内初の電子カルテシステムを導入するなど充実した医療環境を整えています。

地域歯科医療の 中核を担う付属病院

日本大学松戸歯学部付属病院は、臨床実習の場であると同時に地域歯科医療の中核を担い、口腔の健康は全身の健康を支える「オーラルサイエンス(口腔科学)」の理念のもと、新たな歯科医療の分野に挑戦を続けています。そして複雑・多様化する医療ニーズに対応するために、最新の設備で大学付属病院として高度な医療に貢献する一方、地域に根ざした取り組みを積極的に行っています。

付属病院の診療科紹介

■診療部門

【歯科】

総合診療科/放射線科/臨床検査科/病理診断科/保存科/補綴科/歯周科/小児歯科/矯正歯科/特殊歯科/口腔インプラント科/口腔外科/麻酔・全身管理科/スポーツ健康歯科/顎顔面機能再建科/顎関節・咬合科/特別診療室

【医科】

内科/脳神経外科/頭頸部外科/耳鼻咽喉科

【脳機能センター】

口・顔・頭の痛み外来/摂食・嚥下リハビリテーション外来/オーラル・リフレッシュ外来/脳ドック外来/いびき外来/歯科人間ドック外来/神経歯科外来/マイクロスコープ特診外来

■医療情報部門

情報管理科/医療情報システム管理科/医療連携科



point

2 4年間の「医療行動科学」で プロ意識を修得

教育理念である「対人関係能力や医療人としての人格を備えた全人的な歯科医師を育成」の観点から、1～4年次にわたり「医療行動科学1～4」を設置しています。患者さんの声に耳を傾け、その思いをくみ取って適切な説明・治療ができるよう、講義や実習を通して患者心理の理解を深め、プロフェッショナリズムを修得します。



point

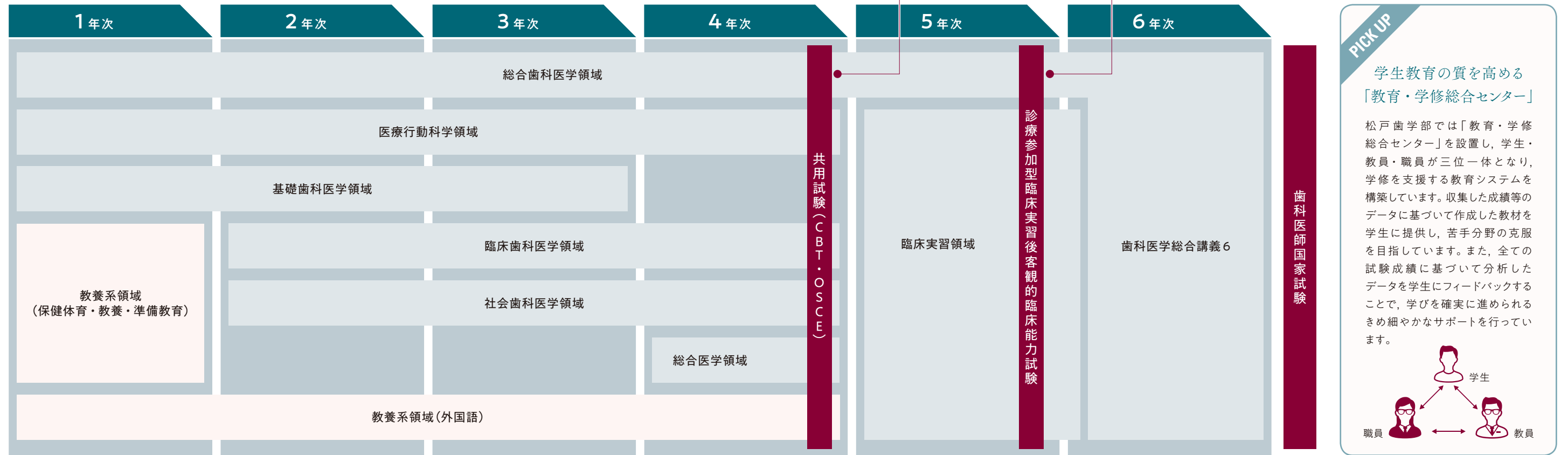
3 教職員が一丸となった きめ細やかな学修支援

各学年に配置された学修サポート委員と学年担任が、学生や保証人との面談を定期的に行い、成績の状況に応じて学修方法や弱点補強のための工夫など適切なアドバイスを学生一人ひとりに行います。特に上級学年になると、5年生では臨床実習への対応、6年生では歯科医師国家試験のために、それぞれ10～12名程度の班に2～3名の教員を配置し、臨床実習へのアドバイスや歯科医師国家試験に向けての知識統合の助言など、きめ細やかな学修支援を行います。



全人的な歯科医師を育成する教育システム

基礎歯科学と基礎医学の「学問体系別講義」と、1つのテーマに様々な専門分野の教員がアプローチする「統合型講義」を連携させた総合的な教育体制を敷いています。また、各学年で段階的に知識や技術を修得できる「歯科学総合講義」を設置し、一人ひとりの学修到達度を確認しながら効率的に学修を進めることができる独自の「歯科学教育システム」を確立しています。



領域概要

教養系領域(保健体育・教養・外国語・準備教育)

歯科医師には専門知識・技術だけでなく、幅広い教養も必要という観点から、充実した教養科目群を設けました。日本大学全学共通教育科目「自主創造の基礎1」,「自主創造の基礎2」,「日本を考える」では、大学での学びやこれからの生き方において必要な日本大学教育憲章に示す基礎的素養を学生個々が身に付けることを主眼としています。また、実社会との関連から教養を学ぶ意義への理解や自身の専門分野を学ぶ意識を高め、以後受講する科目等の成果の充実に寄与するものとなります。準備教育科目の「物理学」,「生命科学」,「数学」においては、基礎歯科学との関連性を重視した学修指導を行っています。保健体育科目では、歯科医師として心と身体の健康を管理できる能力を育成し、身体機能の維持・増進に加え、社会性の体得と自律した確かな人間性を高めていきます。

総合歯科学領域

複数の異なる専門分野の教員が1つのテーマにアプローチする統合型講義を展開し、各学年で修得すべき知識・技術を確認しながら、全人的歯科医師を育成することを目的としています。



基礎歯科学領域

歯科医師になるためには、人体の構造とその詳細、人体の各部分の機能を十分に理解する必要があります。さらに、病気の原因や治療に用いる薬の作用なども十分に理解しておく必要があります。このような医学にとって基本的な知識は基礎医学とよばれており、専門的には解剖学、組織・発生学、生理学、生化学、薬理学、微生物・免疫学、病理学などの分野に分かれています。そこでこれらの学科目を系統的に学修し、生体の構造や機能について幅広い医学知識や実際の歯科治療の知識・技術修得へ向けての基礎知識を身に付けます。

医療行動科学領域

歯科医師としてのプロフェッショナリズムを修得するための知識・技能を1年次から4年次まで一貫して学修します。授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけでなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していきます。

臨床歯科学領域・社会歯科学領域

人体についての医学的知識をもとに、歯科治療はどうあるべきかという理論と具体的な治療法について学びを深めます。歯の硬組織や周辺組織に関する疾患や、その欠損と障害、口腔顎顔面領域の軟組織や硬組織に発生する疾患や障害、発育、成長過程に発生する疾患や障害、また高齢者に特有の疾患や障害とその治療法を学び、多様な歯科医療対応を修得します。また、歯科医療の社会における役割と公衆衛生への関与を学び、科学論文の理解に必要な医療統計学の基礎を学修します。さらに講義と実習を組み合わせることで、臨床実習にあたっての、医学・歯科学の知識と歯科医療の実践との双方を併せ持つ能力を身に付けます。

総合医学領域

臨床実習前に、内科学・外科学などを主体にした医学分野を横断的かつ複合的に学び、「オーラルサイエンス(口腔科学)」を実践するための知識・技術を統合型講義にて身に付けます。

臨床実習領域

担当医の指導を受けながら、1年間をかけて医療現場の実務を修得します。患者さんと接することで、技術だけにとどまらず、歯科医師としての態度、職業意識を身に付けます。



PICK UP

学生教育の質を高める「教育・学修総合センター」

松戸歯学部では「教育・学修総合センター」を設置し、学生・教員・職員が三位一体となり、学修を支援する教育システムを構築しています。収集した成績等のデータに基づいて作成した教材を学生に提供し、苦手分野の克服を目指しています。また、全ての試験成績に基づいて分析したデータを学生にフィードバックすることで、学びを確実に進められるきめ細やかなサポートを行っています。

「共用試験」は、実際に患者さんと接する際に必要な知識・態度・技能を身に付けているかを判断する試験で、臨床実習前の学修のまとめとして実施されます。コンピュータを用いて知識・問題解決能力を評価するCBTと、態度・診察技能を評価する客観的臨床能力試験OSCEがあり、この試験に合格すると5年次に進級し、臨床実習に進むことができます。

診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験は、臨床実地試験と一斉技能試験から成り、臨床実習を通して総合的な臨床能力が身に付いているかを判断する試験です。

歯科医師国家試験

幅広い教養の知識と 基礎的な歯科医学を総合的・複合的に学ぶ



学生からのメッセージ

内藤 瑠菜さん



松戸歯学部での学びについて

「オーラルサイエンス(口腔科学)」を掲げている松戸歯学部での学びは、歯のことに限りません。2年次には医学部のような、全身に関する授業もあります。3年次には1・2年で学んだ身体全体の医学的知識をベースに、口腔疾患についての専門的な知識を学ぶことができ、とても興味深く充実した学修をしています。3年次には実習が増えて臨床の雰囲気を直に感じることができるよう、より歯科医師になる自覚が芽生えました。歯科保存学では患者さんを模したマネキンを使い、実際の口腔内とほぼ同じ環境で治療のトレーニングを行います。知識を詰め込みながら技術を身に付けることはとても難しくもありますが、すぐに相談できる先生方が大勢いることで助けていただきました。先生方が親身になってくれることも松戸歯学部の魅力です。

3年次前期の時間割

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
1	医療行動科学5	歯科材料学2	放射線学2	放射線学2	歯科補綴学1
2	薬理学2	歯科補綴学1	病理学2	放射線学2	衛生・公衆衛生学
3	薬理学2	歯科補綴学1	病理学2	歯科保存学1	歯科保存学1
4	薬理学2	歯科補綴学1	病理学2	歯科保存学1	歯科保存学1

学びの特色

自主創造の基礎1・2

日本大学では、学生一人ひとりが「自主性」と「創造性」に根ざした「将来目標を設定する意識付け」「学ぶ目的意識付け」ができるような「自主創造型パーソン」の育成を目指し、全学共通初年次教育科目として設置されています。そのために1年次では「自主性」を涵養し、「創造性」への導入を目指した「自主創造の基礎(初年次教育科目)」を展開しています。松戸歯学部で求められる学修技法や将来の良き社会人に繋がる学修のあり方について学びます。

栄養学

健康と栄養の密接な関係について、歯科領域から、食育(さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を修得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てること)に対するアプローチを探し、学びを深めます。



医療行動科学

[1・2年次]

授業は統合型講義で行われ、知識の修得だけでなく、学内外での体験学修を含め、社会から求められる医療人としての資質・人格を段階的に形成していきます。

[3年次：患者－医療関係学／医療人間学]

患者さんと医療者のあるべき関係について深く考え、附属病院における「患者付添実習」を通して自らが取るべき行動指針について学修します。

[4年次：医療面接・歯科臨床診断学／医療コミュニケーション学]

医療面接を通して、医療情報を収集し、最適な医療を行うために必要な診断までのプロセスや患者さんと良好な信頼関係を築くための医療コミュニケーションについて学修します。

障害者歯科学

「障害者歯科学」の専門講座を開設している本学部では、障がいを持った患者さんの歯科医療にも力を入れています。摂食嚥下(えんげ)機能障害を有する患者さんの全身疾患への理解を深めるとともに、社会歯科学的背景を理解し課題解決のための知識・技術を修得します。



教員からのメッセージ

有川 量崇 教授

[衛生学]

歯科医師の業務は、診療所や病院で患者を待って治療をするだけではありません。3歳児歯科健診、学校歯科健康診断や自治体で実施する歯周疾患検診など、地域社会で活躍する場が多くあります。また高齢化の進展に伴い、口腔ケア、フレイル予防、栄養サポートなど歯科医師の役割も大きく変化し、口腔の健康が全身に影響を与えることも解明されています。それを学ぶ科目が、2年次の

地域社会で貢献できる 歯科医師になろう

衛生学・公衆衛生学と3年次の予防歯科学・実習です。実習には、オーラルフレイル予防のための口腔機能評価も新たに加えました。学生が日頃から社会に目を向け、社会のストーリー性を感じながら学問に取り組めるような講義・実習を提供しています。公衆衛生学を十分に理解し、将来地域において医療保健活動が実践できる歯科医師を輩出することを目標にしています。



全国トップクラスの来院患者数を誇る 付属病院での臨床実習



学生からのメッセージ

切替 俊彬さん



松戸歯学部での学びについて

5年次からは病院実習が始まり、より実践的な学びが増えます。診療の介補に付いて実際の治療を見学することで、4年次までの座学で学んだ内容の理解が一層深まりました。治療だけではなく、患者さんと先生方とのやり取りに関しても勉強になります。SD診療室では治療計画の立案から実際の治療も自分で行い、麻酔や抜歯、入れ歯の調整などの技術の他にも、患者さんに対するコミュニケーションスキルが鍛えられました。患者さんに労わりの心を持てる歯科医師になるべく、歯科医師としての礎を身に付けていきたいです。そして、松戸歯学部は広大なキャンパスで落ち着いた雰囲気のか学生生活を過ごせます。部活動も盛んで、僕もバレーボール部に所属しました。部活動で築いた仲間の存在も、自分の人生の財産となっています。

5年次前期の時間割

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri
8:40 } 9:40	歯科医療の展開				
10:00 } 12:00	臨床実習				
13:30 } 16:00	臨床実習				
16:30 } 17:00	病院内清掃				

学びの特色

診療参加型臨床実習(SD診療)

付属病院を受診する患者さんの治療に参加し、歯科医療の実践力を培います。指導医によるマンツーマン形式で行われますが、患者さんの初診時医療面接と応急処置に始まり、診査・検査・情報収集と分析、総合的治療計画の立案、患者さんへの説明まで学生が行います。さらに、指導医の指示を仰ぎながら実際に患者さんの治療を担当し、実体験を通して患者さんとの良好な関係構築のためのコミュニケーション能力と診察技能を高めます。



歯科医学総合講義6

診断・治療・予防までの一貫した診療を実践できる歯科医師になれるよう講義を行い、歯科医師国家試験の合格に向けて6年次までに履修した知識・技術を集約します。

課題別臨床実習

6年次に実施され、各診療科で参加型臨床実習を行いながら、新5年生に基本的臨床能力を指導することで自身の知識・技能・態度を見直し、より専門的な知識・技能・態度を統合的に修得します。



PICK UP

学修スペースについて

松戸歯学部では学修支援の一環として学修スペースの充実を図っています。図書館の他に、学生セミナー室も完備。さらに、学生同士が知識を深めながらグループ学修ができるよう午後5時以降は学生食堂を学修スペースとして開放しています。学内では多くの学生がこれらの学修スペースを利用し、毎日の講義・実習の復習や試験に向けて勉学に励んでいます。



教員からの メッセージ

鈴木 浩司 准教授

[顎口腔機能治療学]

歯や口の健康がスポーツだけでなく全身の健康に非常に大切であり、スポーツ選手やスポーツ愛好家には歯と噛みあわせが大切であること、そして安全にスポーツを楽しむために歯や顎をどう守るか、これをスポーツ健康歯科で対応します。また、健康の維持・増進に欠かすことのできない「睡眠」。しかし最近では睡眠に問題を抱える人達が増えています。なかでも睡眠時無呼吸症に代表される睡眠呼吸障害は最も身近に

健康増進に貢献するこれからの歯科医療。
スポーツ歯学と睡眠歯科学

存在していますが、この治療に対する歯科の有効性が認められています。これはいびき外来が担当します。5・6年次の臨床実習では授業で学んだことを生かし、実際の患者治療に携わることで、その目的や意義を再確認します。どちらも多くの患者さんが来院されるため、多くの症例に接することができます。このように健康増進に貢献するこれからの歯科医療を学び、新しい年に相応しい歯科医師育成に努めます。





診療参加型臨床実習を実践する SD(Student Dentist)診療室

松戸歯学部では、5年次の臨床実習においてSD診療室を開設しています。附属病院で実践的に診療マネジメントを行い、SDとしての自覚を持って、治療技術やコミュニケーション能力と知識の向上を図っています。

SD診療とは？

学生が、指導医とともに患者さんのマネジメントを行う“診療参加型”の臨床実習です。



SD診療室 3つの特長

point
1 地域歯科医療の中核を担う
附属病院で優れた臨床能力と
人格を身に付ける

松戸歯学部の学生が臨床実習を行う場は、最新の歯科用CBCT、MRI、血管造影装置など診療機器や国内初の電子カルテを導入した日本大学松戸歯学部附属病院です。同病院は地域における歯科医療の中核的な役割を担っている上、厚生労働省から歯周病関連の高度先進医療機関として認定を受けています。全国歯学部附属病院の中でもトップクラスの来院者数の附属病院での実習を通して専門知識や技術のみならず、患者さんに対する思いやりや奉仕の精神をしっかりと身に付け、即戦力となる優れた臨床能力と人格を備えた歯科医師の育成を目指します。



point
2 脳と口腔の機能に着目した
医療の実践

「顎脳機能センター」は脳血管疾患などによる要介護状態の患者さんなどに対して、口腔と脳の2つの領域からのアプローチを可能にするを目的に開設されました。ことに、「口・顔・頭の痛み外来」は首から上の全ての痛みに対応しており、同一の施設内で医師と歯科医師による協働した診療を可能としています。5年次からは医師や歯科医師、患者さんから数多くのことを学ぶとともに、常に新しい医療技術を学ぶ貴重な環境を整備しています。

point
3 一口腔単位の
診療マネジメントの実践

SD診療では、学生が患者さんのチーム医療の一員となり、診療の開始から終了までの中心的な役割を果たします。指導医の下、初診の患者さんの医療面接の実施、口腔機能の回復をトータルで考える一口腔単位の治療計画立案、必要な検査の実施、治療の実施と介助、予約マネジメント、症例報告を行います。患者さんと信頼関係を築きながら、総合的な歯科臨床能力を身に付けます。

